

日頃、地域医療連携にご支援・ご協力をいただきありがとうございます。

先日、横手市内で脳卒中地域医療連携協議会が開催されました。大仙・横手・湯沢地域、医師、看護師、理学療法士、ケアマネージャー等、約70名の参加があり、脳卒中に関する新しい知見を得る貴重な機会となりました。

今回は、連携協議会の一部をご報告いたします。

地域医療連携室 大沢 知佳

秋田道沿線地域医療連携協議会第8回集会及び学術講演会

平成24年7月6日(金) 横手セントラルホテル

特別講演

「動脈硬化性疾患の全身マネジメント ～頸動脈病変への内科的アプローチを中心に～」

岩手医科大学内科学講座神経内科・老年科分野
助教 大庭 英樹 先生

ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）での、先生の研究成果をもとに、頸動脈病変と動脈硬化性疾患の関連性についてご講演をいただきました。

末梢動脈疾患の死因の約66%が心疾患や脳血管疾患、その他の血管疾患であり、その予防のためには、アテローム血栓症を全身病として捉え、適切な抗血小板薬の投与と血圧管理が重要であると力説されました。



講演

「脳卒中再発予防のための日常生活管理」

平鹿総合病院 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
柴田 亮子さん

脳卒中の再発を予防するためには、基礎疾患となる「糖尿病」「高脂血症」「高血圧」のコントロールと日常生活における「卒煙・減煙」「適量の飲酒」が重要であるとお話がありました。

患者さんが長年の生活習慣を改善するためには、医療者による継続的な支援が大切です。患者さんの思いに寄り添い、気づきを促す関わりが、患者さんの行動変容につながると話されました。



実務者会議

県立リハビリテーション・精神医療センター（以下リハセン）と仙北組合総合病院、雄勝中央病院、当院の4施設から、看護師・理学療法士等、計20名が出席し、リハセンへ転院された患者さんの事例検討を行いました。

当院からは、待機期間が長期化し、一度自宅待機を決めた患者さんの事例について報告がありました。今後、申し込みの時点で、おおよその待機期間を紹介元に連絡する方針となりました。また、認知症病棟へのスムーズな転院に向け、手順や必要書類について確認しました。